

経済・金融 フラッシュ

企業物価指数 2023年7月

～輸入物価は下落基調を継続し、国内企業物価指数(前年比)は縮小～

経済研究部 研究員 安田 拓斗

TEL:03-3512-1838 E-mail: t-yasuda@nli-research.co.jp

1. 国内企業物価指数(前年比)は7ヵ月連続で伸びが鈍化

日本銀行が8月10日に発表した企業物価指数によると、2023年7月の国内企業物価の前年比は3.6%（6月：同4.3%）と7ヵ月連続で伸びが鈍化した。

内訳をみると23類別中、20類別が上昇し、3類別が低下した。非鉄金属は前年比5.8%と前月（同▲0.5%）から伸びを高め、石油・石炭製品は同1.7%（6月：同▲2.5%）とプラスに転じた。一方、電力・都市ガス・水道が前年比▲3.3%（6月：同4.4%）とマイナスに転じたことと、化学製品が同▲3.3%と前月（同▲3.8%）からマイナス幅が低下したものの、引き続きマイナスとなったことが全体を押し下げた。

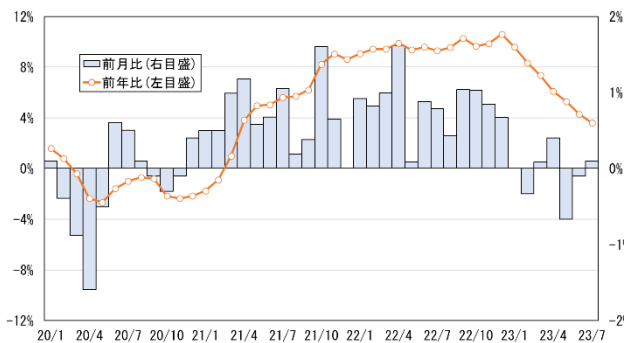
国内企業物価の前月比は7月に0.1%と3ヵ月ぶりにプラスに転じたが、夏季電力料金引き上げの影響を除くと前月比▲0.1%（6月：同▲0.1%）と3ヵ月連続でマイナスとなった。内訳をみると23類別中、12類別が上昇し、8類別が低下、3類別で横ばいとなった。電力・都市ガス・水道が前月比▲1.9%（6月：同▲5.7）と3ヵ月連続でマイナスとなり、化学製品が同▲0.2%（6月：同▲0.9）と5ヵ月連続のマイナスとなった。一方、石油・石炭製品は前月比2.2%（6月：同2.9%）と2ヵ月連続で2%台の伸びを維持し、非鉄金属が同0.6%（6月：同1.2%）と2ヵ月連続のプラスとなったことが、全体がプラスに転じた主因である。

企業物価指数の推移

	国内企業物価		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
22年 6月	0.9	9.6	2.7	19.2	5.3	48.3
7月	0.8	9.3	1.0	19.6	2.8	49.2
8月	0.4	9.6	-2.4	17.1	-2.2	42.8
9月	1.0	10.3	3.0	20.1	5.4	48.5
10月	1.0	9.7	1.2	18.7	-0.1	42.3
11月	0.8	9.9	-2.0	15.1	-5.4	28.0
12月	0.7	10.6	-3.3	12.1	-4.6	22.2
23年 1月	0.0	9.6	-2.0	9.1	-4.5	17.0
2月	-0.3	8.3	1.5	9.5	0.8	15.0
3月	0.1	7.4	0.7	7.2	-1.5	9.4
4月	0.4	6.1	0.2	1.9	-2.9	-3.7
5月	-0.7	5.3	1.7	2.2	2.1	-5.4
6月	-0.1	4.3	1.2	0.8	-1.4	-11.4
7月	0.1	3.6	0.1	-0.2	-0.3	-14.1

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

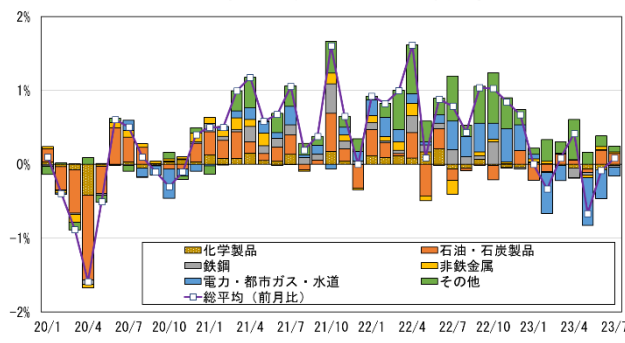
国内企業物価指数の推移



(資料) 日本銀行「企業物価指数」

(年・月)

国内企業物価指数の前月比寄与度分解



(資料) 日本銀行「国内企業物価指数」

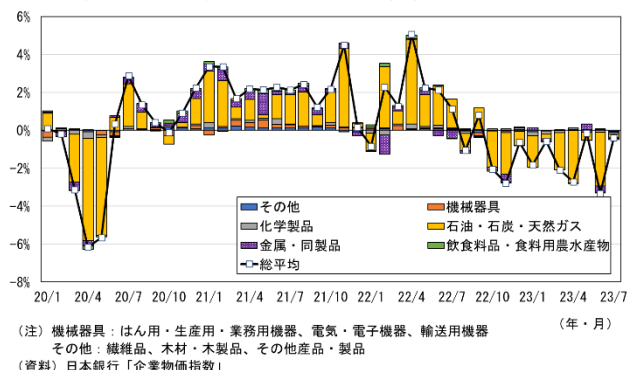
(年・月)

2. 輸入物価(契約通貨ベース)は下落基調を継続

2023年7月の輸入物価は、契約通貨ベースでは前月比▲0.4%（6月：同▲3.3%）と10ヵ月連続のマイナスとなった。また、2023年7月の円相場（対ドル）は前月比0.0%と横ばいになったことで、円ベースでは前月比▲0.3%（6月：同▲1.4%）と契約通貨ベースとほとんど同じ前月比となった。円ベースの前年比は▲14.1%（6月：▲11.4%）と2ヵ月連続で二桁のマイナスとなった。

契約通貨ベースで輸入物価の内訳をみると、10類別中1類別でプラス、1類別で横ばい、8類別でマイナスとなった。はん用・生産用・業務用機器は前月比0.1%（6月：同▲0.3%）と2ヵ月ぶりにプラスに転じた。一方、化学製品は前月比▲1.3%（6月：同▲1.2%）と2ヵ月連続でマイナスとなったほか、石油・石炭・天然ガスは同▲0.4（6月：同▲8.8%）と10ヵ月連続でマイナスとなった。輸入物価は引き続き前年比では大幅なマイナスとなるが、足もとの原油価格の上昇と円安の進行を受けて、前月比では下げ止まりが予想される。

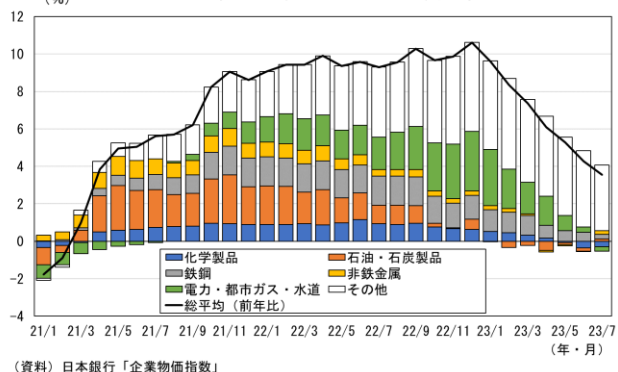
輸入物価指数変化率の要因分解（契約通貨ベース）



3. 今後も国内企業物価指数(前年比)は縮小していく

国内企業物価指数（前年比）は2023年1月から7ヵ月連続で伸びが鈍化しており、2021年4月以来の3%台の伸びとなった。資源高が一服したことで、輸入物価（前年比）は10ヵ月連続マイナスと下落基調にあり、川上段階のインフレ圧力は弱まっている。川下段階における物価上昇圧力は依然として残っているが、国内企業物価（前年比）の先行きは前年の高い伸びの裏がでることもあり、さらに縮小するだろう。

国内企業物価指数の前年比寄与度分解



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。